

2019 年度

# 日本医学会年次報告

2020 年 2 月 28 日

日本医学会



# 目 次

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 1. 日本医学会総会                       | 1  |
| 1) 「第30回日本医学会総会」開催報告             | 1  |
| 2) 「第31回日本医学会総会」の準備              | 2  |
| 2. 日本医学会幹事会                      | 5  |
| 3. 日本医学会定例評議員会                   | 5  |
| 4. 日本医学会シンポジウム                   | 5  |
| 1) 日本医学会シンポジウム                   | 5  |
| 2) 日本医学会シンポジウム企画委員会              | 6  |
| 3) 日本医学会シンポジウム記録 (DVD)           | 6  |
| 4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨              | 7  |
| 5. 日本医学会公開フォーラム                  | 7  |
| 1) 日本医学会公開フォーラム                  | 7  |
| 2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会             | 8  |
| 3) 日本医学会公開フォーラム記録 (DVD)          | 8  |
| 6. 日本医学会医学用語管理委員会                | 9  |
| 7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ          | 9  |
| 8. 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ | 10 |
| 9. 日本医学会分科会用語委員会                 | 11 |
| 10. 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会        | 11 |
| 11. 日本医学会加盟検討委員会                 | 13 |
| 12. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会        | 14 |
| 13. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会  | 14 |
| 14. 日本医学会利益相反委員会                 | 15 |
| 15. 日本医学雑誌編集者組織委員会               | 16 |
| 16. 研究倫理教育研修会                    | 16 |
| 17. 日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会         | 18 |
| 18. 日本医学会総会あり方委員会                | 18 |
| 19. 移植関係学会合同委員会                  | 19 |
| 20. 日本医学会だより                     | 19 |
| 21. 情報発信                         | 20 |
| 22. 会議等の開催数                      | 20 |
| 23. その他                          | 21 |

## 綴じ込み

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 日本医学会だより No.61            | 22 |
| 日本医学会だより No.62            | 24 |
| 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループからの報告 | 26 |



# 1. 日本医学会総会

## 1) 「第30回日本医学会総会」開催報告

第30回日本医学会総会は、齋藤英彦会頭、松尾清一・柵木充明・郡健二郎・森脇久隆・駒田美弘・今野弘之・星長清隆・佐藤啓二ら8名の副会頭、高橋雅英準備委員長の下、中部8県（愛知、岐阜、三重、静岡、石川、福井、富山、長野）に所在する12の医学部・医科大学と各県医師会が主務機関となり、2019年3月から4月にかけて開催した。メインテーマを「医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～」とし、4つの柱「医学と医療の新展開」「社会とともに生きる医療」「医療人の教育と生き方」「グローバル化する日本の医療」からなる基本構想に沿って企画した。

学術集会は、4月末の大型連休初日から3日間、名古屋国際会議場で開催した。各分科会と医師会からのアンケート結果を取り入れながら、4本柱に沿って分野横断的なプログラムを作成し、約90のシンポジウムを企画した。ノーベル賞受賞者3名の講演、歯科医師・薬剤師・看護師各会からの講演、産業界からの講演、新設した日本医学会総会奨励賞受賞者による講演なども企画した。また、第29回から引き継いだ学生企画や、各分科会からのポスターやビデオによる特別展示も行った。医師・歯科医師・薬剤師・看護師などの有料登録者約2万5千人に、学部学生や一般市民などの無料登録者を合わせた計約3万7千人が聴講し、議論した。

市民展示「健康未来 EXPO2019」は、小中学生の春休み期間に合わせて9日間、ポートメッセなごやで開催した。一般市民に医療への関心を持ってもらう、子供らに医療者になることへの憧れを持ってもらうことを目標に、基本コンセプトを「みて・ふれて・まなぶ 医のテーマパーク」とし、可能な限り体験型の展示を行った。来場者はのべ30万人を超えた。

医学史展は、約2ヶ月間、名古屋大学博物館で開催した。「その扉を開いたのは誰か？」をキャッチフレーズとし、日本医学の発展史における重要な歴史的事実を可能な限り実物展示とともに紹介した。約5千人が来場した。

その他、プレイベントは、8県の医学部および医師会が中心となり、各県内で健

康講座や医療展示を開催した。名古屋市科学館と共催した特別展「血液ツアーズ 人体大解明の旅」は、特別展示やセミナーを企画し、有料にも関わらず約8万人が来場した。ソーシャルイベントは、8種目を開催し、スポーツ等を通して参加者が交流を図った。

日本医師会、全国都道府県医師会、郡市医師会、各分科会の先生方、政府・地方自治体、産業界、一般市民の皆様、そして開催に携わって下さった全ての方々の多大なるご尽力により、本総会を成功裡に終えることができた。

## 2) 「第31回日本医学会総会」の準備

第31回日本医学会総会（2023年）は、東京で開催することとし、その準備状況としては、2020年1月10日現在、下記が決定している。

### ①役員

|       |       |                   |
|-------|-------|-------------------|
| 会 頭   | 春日 雅人 | 朝日生命成人病研究所所長      |
|       |       | 国立国際医療研究センター名誉理事長 |
| 副 会 頭 | 宮園 浩平 | 東京大学理事・副学長        |
|       | 北川 昌伸 | 東京医科歯科大学医学部長      |
|       | 天谷 雅行 | 慶応義塾大学医学部長        |
|       | 栗原 敏  | 慈恵大学理事長           |
|       | 新井 一  | 順天堂大学学長           |
|       | 尾崎 治夫 | 東京都医師会長           |
| 準備委員長 | 門脇 孝  | 東京大学大学院医学系研究科特任教授 |
| 顧 問   | 横倉 義武 | 日本医師会長            |
| 顧 問   | 堀 憲郎  | 日本歯科医師会会長         |
| 顧 問   | 福井トシ子 | 日本看護協会会長          |
| 顧 問   | 山本 信夫 | 日本薬剤師会会長          |
| 顧 問   | 木平 健治 | 日本病院薬剤師会会長        |
| 顧 問   | 渡邊 卓  | 杏林大学医学部長          |

|           |       |                                 |
|-----------|-------|---------------------------------|
| 顧問        | 久光 正  | 昭和大学学長                          |
| 顧問        | 冲永 佳史 | 帝京大学理事長                         |
| 顧問        | 林 由起子 | 東京医科大学学長                        |
| 顧問        | 丸 義朗  | 東京女子医科大学学長                      |
| 顧問        | 高松 研  | 東邦大学学長                          |
| 顧問        | 大塚吉兵衛 | 日本大学学長                          |
| 顧問        | 弦間 昭彦 | 日本医科大学学長                        |
| 顧問        | 中釜 齊  | 国立がん研究センター理事長                   |
| 顧問        | 五十嵐 隆 | 国立成育医療研究センター理事長                 |
| 顧問        | 水澤 英洋 | 国立精神・神経医療研究センター理事長              |
| 顧問        | 高久 史磨 | 日本医学会連合名誉会長                     |
| 顧問        | 矢崎 義雄 | 東京医科大学理事長                       |
| 参与        | 瀬戸 泰之 | 東京大学医学部附属病院長                    |
| 参与        | 永井 良三 | 自治医科大学学長                        |
| 参与        | 野田 哲生 | がん研究所所長                         |
| 参与        | 大江 和彦 | 東京大学医学系研究科公共健康医学専攻医療情報システム学分野教授 |
| 学術委員長     | 南学 正臣 | 東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科教授         |
| 総務委員長     | 齊藤 延人 | 東京大学大学院医学系研究科長・医学部長             |
| 登録委員長     | 國土 典宏 | 国立国際医療研究センター理事長                 |
| 展示委員長     | 青木 茂樹 | 順天堂大学放射線科教授                     |
| 広報委員長     | 岡野 栄之 | 慶應義塾大学生理学教室教授                   |
| 式典委員長     | 冲永 寛子 | 帝京大学常務理事・副学長                    |
| 財務委員長     | 間野 博行 | 国立がん研究センター研究所長                  |
| 記録委員長     | 松藤 千弥 | 東京慈恵会医科大学学長                     |
| 男女共同参画委員長 | 大野 京子 | 東京医科歯科大学眼科教授                    |

ソシアルイベント委員長 角田 徹 東京都医師会副会長

幹事長 山内 敏正 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授

幹事長補佐 脇 裕典 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科准教授

## ②会期（案）

学術集会：2023（令和5）年4月21日（金）～4月23日（日）（予定）

学術展示：2023（令和5）年4月20日（木）～4月23日（日）（予定）

一般展示：2023（令和5）年4月15日（土）～4月23日（日）（予定）

## ③会場（案）

学術集会：東京国際フォーラム，JPタワー，丸ビル，サピアタワー，東京會館

学術展示：東京国際フォーラム

博覧会／市民展示：東京国際フォーラム，JPタワー，丸ビル，サピアタワー

## ④主務機関

東京大学医学部，東京医科歯科大学医学部，慶應義塾大学医学部，東京慈恵会医科大学，順天堂大学，帝京大学医学部，杏林大学医学部，昭和大学医学部，東京医科歯科大学，東京女子医科大学医学部，東邦大学医学部，日本大学医学部，日本医科大学，国立国際医療研究センター，国立がん研究センター，国立成育医療研究センター，国立精神・神経医療研究センター，東京都医師会

## ⑤事務局

「第31回日本医学会総会2023」事務局

事務局長 小嶋 照郎

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院中央診療棟2（7F）

Tel.03-5800-9074（直通），Fax.03-5800-6412

E-mail：isoukai31-gakkai@umin.org

## 2. 日本医学会幹事会

第3回日本医学会幹事会を、2020年2月28日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係により、書面による決議となった。主な議題は、「2019年度日本医学会年次報告」、「2020年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

## 3. 日本医学会定例評議員会

第87回日本医学会定例評議員会を、2020年2月28日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係により、書面決議となった。主な議題は、「2019年度日本医学会年次報告」、「2020年度日本医学会事業計画」、「日本医学会新規加盟学会」等である。

## 4. 日本医学会シンポジウム

### 1) 日本医学会シンポジウム

次のとおり2回開催した。

#### ・第155回日本医学会シンポジウム

テーマ：超高齢社会における医療の取り組み—ロコモ・フレイル・サルコペニア

開催日：2019年6月29日（土）

開催場所：日本医師会館 大講堂

組織委員：中村耕三（東和病院院長）

大内尉義（国家公務員共済組合連合会虎の門病院院長）

鈴木隆雄（桜美林大学老年学総合研究所長／大学院教授）

参加者数：348名

・第156回日本医学会シンポジウム

テーマ：腸内細菌は健康と疾患の根源か？

開催日：2019年11月16日（土）

開催場所：日本医師会館 大講堂

組織委員：大野博司（理化学研究所生命医科学研究センターチームリーダー・腸管免疫学）

金井隆典（慶應義塾大学医学部教授・消化器内科学）

参加者数：265名

2) 日本医学会シンポジウム企画委員会

委員は佐谷秀行（慶應義塾大学医学部先端医科学研究所教授・遺伝子制御研究部門）、北川昌伸（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授・包括病理学）、南学正臣（東京大学大学院医学系研究科教授・腎臓・内分泌内科学）、瀬戸泰之（東京大学大学院医学系研究科教授・消化管外科学）、橋本英樹（東京大学大学院医学系研究科教授・保健社会行動学）の5名で構成されており、シンポジウムの基本方針、テーマおよび組織委員について企画構成を行っている。今年度は次のとおり開催した。

・第3回日本医学会シンポジウム企画委員会（2019年5月10日）

第156回シンポジウムのテーマ案について検討がなされた。

第156回シンポジウムテーマ：腸内細菌は健康と疾患の根源か？

・第4回日本医学会シンポジウム企画委員会（2019年10月23日）

第157回シンポジウムのテーマ案について検討がなされた。

第157回シンポジウムテーマ：遠隔診療とロボット支援手術の未来

3) 日本医学会シンポジウム記録（DVD）

「第155回日本医学会シンポジウム」「第156回日本医学会シンポジウム」の全容を、DVDに制作し、関係各位に謹呈した。

また、DVDの内容は、日本医学会ホームページの「Onlineライブラリー」の項

で映像配信した (URL:<http://jams.med.or.jp/>).

#### 4) 日本医学会シンポジウムの講演要旨

講演要旨は、日本医師会雑誌に次のとおり掲載した。第155回日本医学会シンポジウム「超高齢社会における医療の取り組み—ロコモ・フレイル・サルコペニア」：第148巻第11号（2019年11月号）、第156回シンポジウム「腸内細菌は健康と疾患の根源か？」：第148巻第11号（2020年2月号）

## 5. 日本医学会公開フォーラム

### 1) 日本医学会公開フォーラム

次のとおり2回開催した。

#### ・第25回日本医学会公開フォーラム

テーマ：子どものこころのケア

開催日：2019年6月15日（土）

開催場所：日本医師会館 大講堂

組織委員：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター理事長）

高橋 孝雄（慶應義塾大学医学部小児科教授）

参加者数：243名

#### ・第26回日本医学会公開フォーラム

テーマ：がん治療における正しい免疫療法の理解

開催日：2019年10月26日（土）

開催場所：日本医師会館 大講堂

組織委員長：中釜 斉（日本癌学会理事長）

参加者数：224名

## 2) 日本医学会公開フォーラム企画委員会

日本医学会公開フォーラム企画委員会（委員：跡見 裕，池田康夫，大木隆生，永山悦子，羽鳥 裕，南 砂，綿田裕孝）は，日本医学会公開フォーラムの基本方針，テーマおよび組織委員について，企画構成を行う。今年度は，次のとおり2回開催した。

### ・第4回日本医学会公開フォーラム企画委員会（2019年5月10日）

企画委員会で第26回公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：がん治療における正しい免疫療法の理解

開 催 日：2019年10月26日（土）

開 催 場 所：日本医師会館 大講堂

組織委員長：中釜 齊（日本癌学会理事長）

### ・第5回日本医学会公開フォーラム企画委員会（2019年10月23日）

企画委員会で第27回日本医学会公開フォーラムを下記のとおり決定した。

テ ー マ：肺炎を理解する～肺炎予防の重要性とあなたもできる肺炎対策～

開 催 日：2020年6月6日（土）

開 催 場 所：日本医師会館 大講堂

組織委員長：長谷川 好規（日本呼吸器学会理事長）

## 3) 日本医学会公開フォーラム記録（DVD）

「第25回日本医学会公開フォーラム：子どものこころのケア」，「第26回日本医学会公開フォーラム：がん治療における正しい免疫療法の理解」のフォーラムの全容を，DVDに制作し，関係各位に謹呈した。

また，DVDの内容は，日本医学会ホームページの「Online ライブラリー」の項で映像配信した（URL：<http://jams.med.or.jp/>）。

## 6. 日本医学会医学用語管理委員会

日本医学会医学用語管理委員会は、日本医学会の委員会の中で最も歴史が古い委員会である。委員長：脊山洋右（医学中央雑誌刊行会理事長），副委員長：大江和彦（東京大学大学院教授），委員：小野木雄三（国際医療福祉大学三田病院教授），河原和夫（東京医科歯科大学大学院教授），坂井建雄（順天堂大学大学院教授），清水英佑（産業医学振興財団理事長），田中牧郎（明治大学国際日本学部教授），辻 省次（東京大学大学院特任教授），森内浩幸（長崎大学大学院教授），山口俊晴（癌研有明病院名誉院長）の10名により構成されている。

本年度は以下のように2回開催した。第24回医学用語管理委員会（2019年10月30日開催），第25回医学用語管理委員会（2019年12月17日開催）。

## 7. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

平成29年9月に日本遺伝学会が発表した優性遺伝，劣性遺伝などを含む遺伝学用語の改訂の提案については，マスコミで広く取り上げられた。遺伝学に関する用語は，医学，教育，社会において広い分野で関係することから，日本医学会としては十分な検討の上，プロセスを踏んでコンセンサスを形成することが重要と考え，医学用語管理委員会の下にワーキンググループ（WG）を設けて検討を行ってきた。委員は辻省次（座長，日本神経学会），柏井 聡（日本眼科学会），久具宏司（日本産科婦人科学会），櫻井晃洋（日本人類遺伝学会），戸田達史（日本神経学会），小崎健次郎（日本先天異常学会），梶屋啓志（日本遺伝学会），森内浩幸（日本小児科学会），各委員。

第7回を7月17日（水），第8回を9月19日（木），第9回を11月13日（水）に開催した。また，分科会に対して2回目のアンケートを実施した。これは昨年12月に遺伝学用語についての公開シンポジウムを開催したところ，新たな推奨用語の提案があったことによる。また，この過程の中で，本年7月に，日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」という標題の「報告」が

公表されたことを受けて日本学術会議との意見交換会を設け、課題検討を行うとともに、今後の連携を進めることが話し合われた。

9回のWGでの検討後、

1. 推奨用語としては4文字で「顕性遺伝」「潜性遺伝」とする。従来の表記は、(優性遺伝)、(劣性遺伝)として、括弧書きで表記する。これらの言葉は、遺伝形式を示す言葉であることから、「顕性遺伝(優性遺伝)」「潜性遺伝(劣性遺伝)」と明記することが必要と考えられことから、4文字の言葉として推奨用語を示す。
2. 医学用語管理委員会に本案を提示し、パブリックコメントを経た上で最終的に決定する。
3. 5年程度の期間を経た後は推奨用語に移行することとしたい、とする内容の報告書(綴じ込み参照)を医学用語管理委員会に提出した。

## 8. 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ

患者や家族にとって辛い響きである「奇形」という用語を別の言葉に変える事を検討するため、2019年10月に医学用語管理委員会の下に発足したワーキンググループ(WG)である。

臓器名や病名に続いて「奇形」が用いられている用語について置き換えの提案を検討する。「奇形」を含む用語は様々あり、一律に置き換えられない問題を含んでいることから、WGで十分な議論を行い、分科会や関係する様々な分野の団体にも意見を伺い、コンセンサスを得たいと考えている。

座長：森内浩幸(長崎大学 小児科)、委員：大植孝治(兵庫医科大学 小児外科)、柏井 聡(愛知淑徳大学 視覚科学)、久具宏司(都立墨東病院 産婦人科)、小崎健次郎(慶應義塾大学 臨床遺伝学)、古庄知己(信州大学 遺伝学)、坂本博昭(大阪市立総合医療センター)、滝川一晴(静岡県立こども病院 整形外科)、西本 聡(兵庫医科大学 形成外科)、

丹羽隆介(筑波大学 生存ダイナミクス)、梶屋啓志(理化学研究所バイオリソースC)、

三木 崇範（香川大学 神経機能形態学）で構成されている。委員は議論の内容によりメンバーがさらに加わることもある。第1回を11月15日（金）に開催、第2回を3月6日（金）に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で次年度に延期となった。

## 9 . 日本医学会分科会用語委員会

2019年度日本医学会分科会用語委員会を12月17日（火）に開催した。主な議題は、1. ICD-11の概要について、2. 日本医学会医学用語辞典WEB版のメンテナンス報告、3. 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループからの報告、4. 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループからの報告、5. ヒト疾患における異常な臨床表現型を記述するHuman Phenotype Ontologyについて、質疑応答である。

## 10 . 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会

医学賞・医学研究奨励賞の選考作業は、日本医学会が日本医師会より委任されているもので、本年度は2019年8月30日（金）に開催された。

委員に加え、本年度は、特例委員として、仲嶋一範（慶應義塾大学医学部解剖学教授）、岡田保典（順天堂大学客員教授）、三谷絹子（獨協医科大学医学部血液・腫瘍内科学教授）、廣村桂樹（群馬大学大学院医学系研究科腎臓・リウマチ内科学教授）、高橋良輔（京都大学大学院医学研究科脳神経内科学教授）、島崎琢也（慶應義塾大学医学部再生医学准教授）、園田康平九州大学大学院医学研究院眼科学教授）、の7氏が加わった。

結果は、次のとおり医学賞3名、医学研究奨励賞15名が選考され、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において表彰された。なお、医学賞受賞者の論文を日本医

師会雑誌（第 148 巻第 9 号）に掲載した。

[2019 年度日本医師会医学賞]

- ・がん遺伝子 RET と細胞運動制御因子 Girdin の発見と機能に関する研究  
高橋雅英／名大・分子病理学
- ・健康寿命に関する疫学研究と健康寿命延伸に向けた提言  
辻 一郎／東北大・公衆衛生学
- ・福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明・治療に関する研究  
戸田達史／東大・神経内科学

[2019 年度日本医師会医学研究奨励賞]

- ・シナプス結合則から大脳新皮質の基本構築を探る  
日置寛之（順天堂大・神経生物学・形態学）
- ・生体イメージングによる Central Nervous System Lupus 病態解明と新規治療法開発への挑戦  
宮部斉重／日医大・細胞生物学
- ・代謝機構の理解に基づくヒト iPS 細胞由来心筋細胞の作製とその応用  
遠山周吾／慶大・循環器内科学
- ・ROCK シグナルによるエネルギー代謝調節機構の解明と糖尿病腎症への治療応用的場圭一郎／慈恵医大・糖尿病・代謝・内分泌内科学
- ・脳腎連関を介した腎臓保護メカニズムの解明  
井上 剛／東大・CKD 病態生理学
- ・clonal hematopoiesis に注目した自己免疫性疾患の病態解明  
寺尾知可史／理化学研究所
- ・解糖系酵素に焦点を充てた脳アミロイド血管症の病態解明と治療開発  
井上泰輝／熊本大・脳神経内科学
- ・がん治療と就労の両立支援に関する研究と就労支援ツールの開発

遠藤源樹／順天堂大・公衆衛生学

- ・糖尿病とがん：両者を繋ぐ複雑な関係を明らかにするための疫学研究

後藤 温／国立がん研究センター社会と健康研究センター

- ・オートファジー・リソソーム機能を標的とした難治性糖尿病性腎症に対する新規治療法の開発

久米真司／滋賀医大・糖尿病内分泌・腎臓内科学

- ・稀少難治性疾患（POEMS 症候群）に対する治療戦略の構築

三澤園子／千葉大・脳神経内科学

- ・肺炎球菌ワクチン導入に伴う肺炎球菌の遺伝子組み換え機構および薬剤耐性菌拡散原因の解明

中野哲志／京大・臨床病態検査学

- ・原発性肝癌における革新的治療開発を目指した腫瘍免疫とサルコペニアの網羅的解析

伊藤心二／九大・消化器・総合外科学

- ・難治性耳管開放症に対する診断・治療に関する研究

池田怜吉／仙塩利府病院耳科手術センター

- ・Neurovascular Unit の概念から導きだされる糖尿病黄斑浮腫の病態解明と新規治療戦略

白井嘉彦／東京医大・眼科学

## 11 . 日本医学会加盟検討委員会

日本医学会加盟検討委員会は、13名の委員により構成。

2019年度第1回日本医学会加盟検討委員会は2019年12月12日（木）に開催した。今年度の加盟申請の31学会についての審査を慎重に行い、その結果を日本医学会協議会に提出した。因みにこの審査は、日本医学会加盟検討委員会報告（平成23年7月）に示された新たな審査基準に基づいて行われている。

## 12. 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

平成 23 年度に発足した委員会で、日本医学会として遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的としている。委員長：福嶋義光（信州大学医学部遺伝医学部特任教授）、担当副会長 門脇 孝（東京大学医学系研究科特任教授）委員：五十嵐 隆（国立成育医療研究センター理事長）、苛原 稔（徳島大学医歯薬学研究部長）、鎌谷洋一郎（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、戸田達史（東京大学大学院医学系研究科教授）中村清吾（昭和大学医学部乳腺外科教授 / 大学病院ブレストセンター診療科長）、中山智祥（日本大学医学部医学科教授）、吉田輝彦（国立がん研究センター中央病院）の 10 名で構成されている。

## 13. 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会

「遺伝子・健康・社会」検討委員会の部会として平成 25 年 3 月に発足し、日本産科婦人科学会との協力体制のもと、主に施設の認定、登録を行っている。久具宏司（部会長：東京都立墨東病院産婦人科部長）、澤 倫太郎（日本医科大学女性生殖発達病態学講師）、榎原秀也（横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科診療教授・診療部長）、川目 裕（東北メディカル・メガバンク機構教授）、高田史男（北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学教授）、丸山英二（神戸大学名誉教授）の 6 名により構成されている。

ここ数年、認定施設以外で検査を実施する医療機関が急増し、その中には必ずしも適切な対応が行われていない機関もあることから、2019 年に厚生労働省が指針を出すべく検討することになり、現在も検討が行われている。そのため、施設認定・登録部会としての活動は本年度で一旦終了する。

## 14. 日本医学会利益相反委員会

平成 22 年度に発足した「日本医学会臨床部会利益相反委員会」を、平成 24 年度に「日本医学会利益相反委員会」に改称した。委員長：曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者），委員：石岡千加史（東北大学加齢医学研究所教授），植木浩二郎（国立国際医療研究センター糖尿病研究センター長），荏田香苗（日本医学会幹事／杏林大学医学部教授），寺井崇二（新潟大学大学院医歯学総合研究科教授），土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科教授），南学正臣（東京大学大学院医学系研究科教授），浅井文和（日本医学ジャーナリスト協会理事／元朝日新聞社編集委員），小笠原彩子（南北法律事務所弁護士），小島多香子（東京医科大学准教授）の 10 名で構成。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との第 2 回 4 委員会合同委員会を、2019 年 5 月 30 日（木）に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況，②第 5 回研究倫理教育研修会についてであり，その後，第 5 回研究倫理教育研修会を開催した。

2019 年 10 月 30 日（水）に第 19 回委員会を開催した。主な議題は、① COI マネージメントの経緯と 2019 年度の取り組み（1. 日本医学会利益相反委員会の活動経緯，2. 日本医学会利益相反委員会活動計画，3. 再生医療における産学連携の現状について，4. 日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会との連名による要請書について，5. 日本医学会 COI 管理ガイドライン（一部改定案）について），②日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告等であった。

2020 年 1 月 7 日（火）に 4 委員会委員長合同会議を開催し，第 6 回研究倫理教育研修会のプログラム案の作成等を行った。

2 月 26 日（水）に第 20 回委員会を開催する予定であったが，新型コロナウイルス感染症の関係で，次年度延期となった。

## 15. 日本医学雑誌編集者組織委員会

日本医学雑誌編集者組織委員会は、平成20年に発足した。委員構成は、委員長：北村 聖（東京大学名誉教授／地域医療研究所シニアアドバイザー）、委員：有馬 寛（名古屋大学大学院医学系研究科教授）、遠藤 格（横浜市立大学大学院医学研究科教授）、木内貴弘（東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク研究センター教授）、北川正路（東京慈恵会医科大学学術情報センター課長）、黒沢俊典（特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会データベース事業部次長）、武田祐子（順天堂大学大学院医学研究科教授）、津谷喜一郎（東京有明医療大学保健医療学部特任教授）、中山健夫（京都大学大学院医学研究科健康情報学教授）、林 和弘（科学技術・学術政策研究所上席研究官）、湯浅保仁（東京医科歯科大学副学長／特任教授）、吉岡俊正（東京女子医科大学前理事長・学長）の12名である。

本委員会と日本医学会連合研究倫理委員会と日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会と日本医学雑誌編集者組織委員会との第2回4委員会合同委員会を、2019年5月30日（木）に開催した。主な議題は、①各委員長からの挨拶と取り組み状況、②第5回研究倫理教育研修会についてであり、その後、第5回研究倫理教育研修会を開催した。

第24回委員会を、2019年11月3日（火）に開催した。主な議題は、①日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）活動経緯報告、②WPRIM（WHO西太平洋地域医学情報データベース）/APAME（アジア太平洋医学雑誌編集者会議）2019年会議報告、③日本医学会利益相反委員会活動報告、④今後の活動について等であった。

また、4委員会委員長合同会議を、2020年1月7日に開催し、第6回研究倫理教育研修会のプログラム案の作成等を行った。

## 16. 研究倫理教育研修会

日本医学会分科会全体で、研究倫理のあり方、研究不正の問題の予防と発生時の対

応について情報を共有し、各分科会会員の教育啓発に活かすことを目的として、日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会合同で、第5回研究倫理教育研修会を、「アンケート調査による現状と今後の課題」をテーマとして、2019年5月30日（木）に開催した。詳細は、日本医学会ホームページに掲載したので、参照いただきたい。

シンポジウムは、市川家國（日本医学会連合研究倫理委員会委員長）、南学正臣（日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会委員長）、北村 聖（日本医学雑誌編集者組織委員会委員長）、曾根三郎（日本医学会利益相反委員会委員長）の座長の下、下記のプログラムで開催された。

- ・学術データは誰のものか－悪徳雑誌からデータ・シェアリングまで－／有田正規（国立遺伝学研究所生命情報・DDBJセンター長・教授）
- ・「日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン 第2版」について－／北村 聖（東京大学名誉教授／地域医療研究所シニアアドバイザー）
- ・臨床研究と COI 管理：国際的な動向を踏まえて／曾根三郎（徳島大学名誉教授／徳島市病院事業管理者）
- ・分科会アンケート調査から見た COI 管理の問題点と今後の課題／土岐祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学教授）
- ・診療ガイドラインのこれまで・これから／中山健夫（京都大学大学院医学研究科健康情報学教授）
- ・本邦における診療ガイドラインの在り方／南学正臣（東京大学大学院医学系研究科腎臓内科学／内分泌病態学教授）
- ・臨床研究法施行をふまえたこれからの臨床研究倫理調査／吉田雅幸（東京医科歯科大学生命倫理研究センター長・教授）
- ・望まれる学会間の倫理指針および学習機会の共通化／市川家國（信州大学医学部特任教授）

## 17. 日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会

日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会は、日本産科婦人科学会と日本移植学会からの要望を受けて、倫理的な課題や社会的な影響、医学的な安全性を日本医学会として検討するために、2019年4月に新たに発足した。委員構成は、委員長：飯野正光（日本大学医学部特任教授／日本医学会副会長）、委員：会田薫子（東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター特任教授）、市川家國（信州大学医学部特任教授／日本医学会連合研究倫理印会委員長）、苛原 稔（徳島大学大学院医歯薬学研究部長／日本産科婦人科学会倫理委員会副委員長）、加藤和人（大阪大学大学院医学系研究科医の倫理と公共政策学教授／日本生命倫理学会理事）、畔柳達雄（日本医師会参与／弁護士）、國土典宏（国立国際医療研究センター理事長／日本移植学会倫理委員会委員長）、霜田 求（京都女子大学現代心理学教授）、柘植あづみ（明治学院大学社会学教授）、平川俊夫（日本医師会常任理事）、町野 朔（上智大学名誉教授）、丸山英二（神戸大学名誉教授）、武藤香織（東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授）、横野 恵（早稲田大学社会科学准教授）の14名。

2019年4月3日（水）に第1回委員会、5月28日（火）に第2回委員会、7月26日（金）に第3回委員会、9月11日（水）に第4回委員会、11月20日（水）に第5回委員会、2020年2月5日（水）に第6回委員会がそれぞれ開催され、3月27日（金）に第7回委員会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の関係で、次年度延期となった。

また、2019年4月5日（金）に門田守人日本医学会長と飯野委員長が日本医師会館小講堂にて記者発表会を行い、設置に至った経緯や、今後の方向性等について説明した。

## 18. 日本医学会総会あり方委員会

日本医学会総会のあり方について、中・長期的な展望で検討する委員会で14名の

委員で構成されている。

委員長：飯野正光（日本医学会副会長／日本大学医学部特任教授），副委員長：森正樹（日本医学会副会長／九州大学大学院医学研究院教授），委員：門脇 孝（日本医学会副会長／東京大学大学院医学系研究科特任教授），池田康夫（早稲田大学特命教授），今村 聡（日本医師会常任理事），大槻剛巳（川崎医科大学教授），春日雅人（朝日生命成人病研究所長），岸 玲子（日本医学会副会長／北海道大学環境科学研究教育エンター特別招聘教授），熊ノ郷 淳（大阪大学大学院医学系研究科教授），小玉弘之（日本医師会常任理事），齋藤光江（日本医学会幹事／順天堂大学医学部教授），高橋雅英（名古屋大学理事），森山 寛（東京慈恵会医科大学名誉教授），柳田素子（京都大学大学院医学研究科教授）。

## 19．移植関係学会合同委員会

平成4年4月に発足した移植関係学会合同委員会は厚生労働省，日本医師会，関係学会で構成されており，世話人を日本医学会長が務めている。本年度は持ち回り開催で2回開催し，新規移植実施施設を認定した。

（10月4日）腎臓移植実施施設 鳥取大学医学部附属病院

（12月17日）小児心臓移植実施施設 国立成育医療研究センター

その他，7月9日に，腎臓移植実施施設の認定取り下げについて（市立旭川病院，埼玉県済生会栗橋病院，N T T西日本大阪病院，奈良県総合医療センター，千葉東病院，横浜市立大学附属病院，土谷総合病院），脳死肝移植希望者（レシピエント）適応基準の改正についてのお知らせを関係各位宛連絡した。

## 20．日本医学会だより

平成元（1989）年度より発行している日本医学会だより（JAMS News）は，本年度，

5月に No.61 を, 10月に No.62 を発行した(綴じ込みの「日本医学会だより」を参照).  
なお, No58からはオンライン版のみの発行となっているが, 今後は「日本医学会 e-News」と名称変更して発行する(不定期).

## 21. 情報発信

平成12年10月に日本医学会のホームページを開設した. 日本医学会分科会の協力を得て, 本会のホームページ(URL:<http://jams.med.or.jp/>)と分科会ホームページをリンクしている.

## 22. 会議等の開催数

|                          |          |
|--------------------------|----------|
| 日本医学会協議会(会長, 副会長)        | 12回      |
| 日本医学会幹事会                 | 1回(書面決議) |
| 日本医学会定例評議員会              | 1回(書面決議) |
| 日本医学会シンポジウム              | 2回       |
| 日本医学会シンポジウム打ち合わせ会        | 2回       |
| 日本医学会公開フォーラム             | 2回       |
| 日本医学会公開フォーラム打ち合わせ会       | 2回       |
| 日本医学会シンポジウム企画委員会         | 2回       |
| 日本医学会シンポジウム組織委員会(メール開催)  | 2回       |
| 日本医学会公開フォーラム企画委員会        | 2回       |
| 日本医学会公開フォーラム組織委員会(メール開催) | 2回       |
| 日本医学会医学用語管理委員会           | 2回       |
| 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ     | 3回       |

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 「奇形」を含む医学用語の置き換えに関する        |    |
| ワーキンググループ                   | 1回 |
| 日本医学会分科会用語委員会               | 1回 |
| 医学用語打ち合わせ会                  | 4回 |
| 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会       | 1回 |
| 日本医学会加盟検討委員会                | 1回 |
| 日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会打合せ会   | 1回 |
| 「母体血を用いた出生前遺伝学的検査」施設認定・登録部会 | 1回 |
| 日本医学会利益相反委員会                | 1回 |
| 日本医学会利益相反委員会打ち合わせ会          | 2回 |
| 日本医学雑誌編集者組織委員会              | 1回 |
| 日本医学雑誌編集者組織委員会打ち合わせ会        | 2回 |
| 4委員会合同委員会                   | 1回 |
| 4委員会委員長合同会議                 | 1回 |
| 研究倫理教育研修会                   | 1回 |
| 日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会        | 6回 |
| 移植関係学会合同委員会                 | 2回 |
| 記者会見                        | 1回 |

## 23. その他

- 1) 「日本医学会分科会一覧」を2019年8月に作成，関係各方面に配付した。
- 2) 「2020年日本医学会分科会総会一覧」(オンライン版)を2019年12月に作成した。
- 3) 「日本医師会年次報告書－令和元年度－」および「日本医師会会務報告」に，日本医学会関係の記事を掲載する予定。

# 日本医学会だより

JAMS News

2019年5月 No. 61  
日本医学会

## ◆日本医学会協議会

日本医学会会長・副会長と日本医師会（日本医学会担当）役員で毎月開催している役員会議である。

## ◆第86回日本医学会定例評議員会

2019年2月22日（金）に開催した。2018年度年次報告、2019年度事業計画の報告の他、第30回日本医学会総会2019中部の開催準備状況、第31回日本医学会総会の各委員会役員決定の報告（会期：2023年4月21日（金）～23日（日）、東京国際フォーラム他、会頭 春日雅人）等の議題があった。2018年度新規加盟学会は、日本脳神経血管内治療学会、日本骨粗鬆症学会、日本アフェレシス学会が承認され、132学会となった。

## ◆日本医学会加盟検討委員会

2018年度第1回日本医学会加盟検討委員会を、2018年12月20日（木）に開催した。加盟申請の29学会についての審査を慎重に行い、その結果を2019年1月11日（金）の日本医学会協議会で門田会長に報告した。

## ◆第25回日本医学会公開フォーラム

「子どものこころのケア」をテーマに、2019年6月15日（土）13:00～16:05、日本医師会館大講堂において開催予定（組織委員：五十嵐 隆・国立成育医療研究センター理事長、高橋孝雄・慶應義塾大学医学部小児科教授）。市民を対象とした公開フォーラムである。参加費無料。

終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

## ◆第155回日本医学会シンポジウム

「超高齢社会における医療の取り組み—ロコモ・フレイル・サルコペニア」をテーマに、2019年6月29日（土）13:00～17:05、日本医師会館大講堂で開催予定（組織委員：中村耕三、大内尉義、鈴木隆雄）。参加費無料。終了後、ホームページにて映像配信する。

申し込み・詳細は日本医学会ホームページご参照。

## ◆日本医学会医学用語管理委員会

2018年度は3回開催した。12月18日（火）には2018年度分科会用語委員会を開催した。本委員会の下に「優性」、「劣性」などの遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ（WG）を設け、検討を行っており、12月11日（火）にはWGが中心となり「適切な遺伝学用語のあり方」をテーマとしたシンポジウムを開催した。

また、本年度新たに、本委員会の下に「奇形」を含む医学用語の置き換え提案について検討を行うワーキンググループを立ち上げ、検討を行う予定である。

## ◆日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会

遺伝情報の取り扱い、検査の質保証、提供体制などに取り組むことを目的として発足した委

員会で委員長は福嶋義光信州大学特任教授。昨年度は10月5日（金）と3月7日（木）に開催した。「NIPTに関する指針案」について他の検討を行った。

### ◆日本医学会利益相反委員会

第18回委員会を、2019年3月26日（火）に開催した。主な議題は、(1) COI マネージメントの経緯と2019年度の取り組み（①日本医学会利益相反委員会の活動経緯、②第5回研究倫理教育研修会の開催、③129分科会宛アンケート調査結果、④Cochrane レビューとCOI管理の現状、⑤ICMJE COI disclosure formへの整合性化（特に、institutional COI disclosure）、(2) 日本医学雑誌編集者組織委員会活動報告、(3) 臨床研究CREATE-X事案等であった。

### ◆日本医学雑誌編集者組織委員会

第23回委員会を、2019年4月9日（火）に開催した。主な議題は、(1) 日本医学会129分科会宛アンケート（日本医学会利益相反委員会と共同作成）報告書、(2) 『日本医学会 医学雑誌編集ガイドライン』の更新、(3) 「悪徳雑誌への注意喚起」について（報告）、(4) 第5回研究倫理教育研修会の開催、(5) 日本医学会利益相反委員会活動報告等であった。

### ◆日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会

子宮移植について、医学的・倫理的・法律学的見地から包括的に議論し、日本医学会として対応することを目的として、2019年度より新たに設立した委員会である（委員長：飯野正光日本大学医学部特任教授/日本医学会副会長）。

第1回委員会を、2019年4月3日（水）に開催した。主な議題は、(1) 日本産科婦人科学会からの経緯説明、(2) 日本移植学会からの経緯説明、および今後の検討の進め方等であった。

なお、4月5日（金）に日本医師会館小講堂にて門田日本医学会長と飯野委員長が本委員会

についての記者発表会を行った。

### ◆医学賞・医学研究奨励賞

2019年度日本医師会医学賞・医学研究奨励賞（旧医学研究助成費）の推薦依頼を日本医師会雑誌の5月号に公示。要項は本会に問い合わせいただきたい。受付期間は、5月15日（水）～7月3日（水）。推薦書は、公示日より日本医師会ホームページ（<http://www.med.or.jp/>）からダウンロードできる。

### ◆日本医学会への加盟申請

2019年度の日本医学会への新規加盟申請は、5月15日（水）に公示（日本医師会雑誌等）し、7月31日（水）に締め切る。申請書は、公示日より本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）からダウンロードできる。

### ◆移植関係学会合同委員会

1992年4月に発足した本委員会は厚労省、日本医師会、関係学会で構成されており、世話を日本医学会長が務めている。

### ◆研究倫理教育研修会

日本医学会連合研究倫理委員会、日本医学会連合診療ガイドライン検討委員会、日本医学雑誌編集者組織委員会、日本医学会利益相反委員会主催の第5回研究倫理教育研修会を、「アンケート調査による現状と今後の課題」をテーマに、2019年5月30日（木）、13:00～16:35、日本医学会分科会の倫理委員会、診療ガイドライン検討委員会、編集委員会、利益相反委員会の代表者またはそれに準ずる者（各分科会5名以内）を対象として、日本医師会館大講堂にて開催する。

当日は、有田正規、北村 聖、曾根三郎、土岐祐一郎、中山健夫、南学正臣、吉田雅幸、市川家國の8名の演者による講演の後、総合討論が行われる予定。

# 日本医学会だより

JAMS News

2019年10月 No.62  
日本医学会

## ◆日本医学会公開フォーラム

第26回日本医学会公開フォーラムは「がん治療における正しい免疫療法の理解」をテーマに、10月26日（土）13:00~16:05、日本医師会館大講堂において開催。

組織委員長は、中釜 斉（日本癌学会理事長）。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

## ◆日本医学会シンポジウム

第156回日本医学会シンポジウムは「腸内細菌は健康と疾患の根源か？」をテーマに、11月16日（土）13:00~17:05、日本医師会館大講堂において開催予定。

組織委員は、大野博司（理化学研究所生命科学センターチームリーダー・腸管免疫学）、金井隆典（慶應義塾大学医学部教授・消化器内科学）の各氏。参加申し込みは郵便はがき、FAX、本会ホームページ（<http://jams.med.or.jp/>）にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載中。

## ◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を8月30日（金）に開催し、2019年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

日本医師会医学賞・医学研究奨励賞選考委員会委員並びに特例委員が、今年度の推薦数：医学賞18、奨励賞31を審査した。

選考の結果、11月1日（金）の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・がん遺伝子 *RET* と細胞運動制御因子 Girdin の発見と機能に関する研究/高橋雅英（名大・分子病理学）
- ・健康寿命に関する疫学研究と健康寿命延伸に向けた提言/辻 一郎（東北大・公衆衛生学）
- ・福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明・治療に関する研究/戸田達史（東大・神経内科学）

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・シナプス結合則から大脳新皮質の基本構築を探索/日置寛之（順天堂大・神経生物学・形態学）
- ・生体イメージングによる Central Nervous System Lupus 病態解明と新規治療法開発への挑戦/宮部斉重（日医大・細胞生物学）
- ・代謝機構の理解に基づくヒト iPS 細胞由来心筋細胞の作製とその応用/遠山周吾（慶大・循環器内科学）
- ・ROCK シグナルによるエネルギー代謝調節機構の解明と糖尿病腎症への治療応用/的場圭一郎（慈恵医大・糖尿病・代謝・内分泌内科学）
- ・脳腎連関を介した腎臓保護メカニズムの解明/井上 剛（東大・CKD 病態生理学）
- ・clonal hematopoiesis に注目した自己免疫性疾患の病態解明/寺尾知可史（理化学研究所）

- ・解糖系酵素に焦点を充てた脳アミロイド血管症の病態解明と治療開発/井上泰輝(熊本大・脳神経内科学)
- ・がん治療と就労の両立支援に関する研究と就労支援ツールの開発/遠藤源樹(順天堂大・公衆衛生学)
- ・糖尿病とがん：両者を繋ぐ複雑な関係を明らかにするための疫学研究/後藤 温(国立がん研究センター社会と健康研究センター)
- ・オートファジー・リソソーム機能を標的とした難治性糖尿病性腎症に対する新規治療法の開発/久米真司(滋賀医大・糖尿病内分泌・腎臓内科学)
- ・稀少難治性疾患(POEMS症候群)に対する治療戦略の構築/三澤園子(千葉大・脳神経内科学)
- ・肺炎球菌ワクチン導入に伴う肺炎球菌の遺伝子組み換え機構および薬剤耐性菌拡散原因の解明/中野哲志(京大・臨床病態検査学)
- ・原発性肝癌における革新的治療開発を目指した腫瘍免疫とサルコペニアの網羅的解析/伊藤心二(九大・消化器・総合外科学)
- ・難治性耳管開放症に対する診断・治療に関する研究/池田怜吉(仙塩利府病院耳科手術センター)
- ・Neurovascular Unitの概念から導きだされる糖尿病黄斑浮腫の病態解明と新規治療戦略/白井嘉彦(東京医大・眼科学)

### ◆医学用語管理委員会

10月30日(水)、12月17日(火)に開催予定である。

### ◆遺伝学用語改訂に関するワーキンググループ

医学用語管理委員会のワーキンググループ(WG)で、9月19日(木)に開催された。7月8日に日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について(改訂)」が公表され、新聞でも大きく報じられた。「優性、劣

性」を高校の教科書で「顕性、潜性」と表記することを決定したとする内容であった。現在WGで検討中の課題であることからWGでは、「社会、医学、医療の分野を含めて総合することが望ましい。」として日本学術会議に申し入れを行った。10月1日(火)に両者で意見交換の場を持った。

### ◆「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ(仮称)

医学用語管理委員会のワーキンググループであり、本年度新しく発足する(座長：森内浩幸 長崎大学大学院教授・小児科学)。

### ◆2019年度分科会用語委員会

本年度は12月17日(火)14:00~16:00、日本医師会館小講堂にて開催予定である。

### ◆子宮移植倫理に関する検討委員会

日本医学会子宮移植倫理に関する検討委員会では、14名の委員から成る委員会で、2019年度に新たに発足した(委員長：飯野正光 日本大学医学部特任教授/日本医学会副会長)。4月3日(水)、5月28日(火)、7月26日(金)、9月11日(水)にそれぞれ開催され、11月20日(水)に第5回委員会を開催予定。

### ◆日本医学会定例評議員会

第87回日本医学会定例評議員会を2020年2月28日(金)14:00~16:00、日本医師会館大講堂にて開催予定。主な議題は1. 2019年度年次報告、2. 2020年度事業計画、3. 日本医学会新規加盟学会の件、4. その他である。

### ◆移植関係学会合同委員会

第38回委員会を書面決議にて開催した。審議事項は、新規腎臓移植実施施設の認定(鳥取大学医学部附属病院)である。

## 遺伝学用語改訂に関するワーキンググループからの報告

### 委員構成

|          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| 久具 宏司    | 日本産科婦人科学会，都立墨東病院産婦人科部長          |
| 櫻井 晃洋    | 日本人類遺伝学会，札幌医科大学医学部遺伝医学教授        |
| 辻 省次（座長） | 日本神経学会，国際医療福祉大学教授，東京大学分子神経学特任教授 |
| 戸田 達史    | 日本神経学会代表理事，東京大学大学院医学系研究科神経内科教授  |
| 小崎健次郎    | 日本先天異常学会，慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター     |
| 榎屋 啓志    | 日本遺伝学会，理化学研究所バイオリソースセンター        |
| 森内 浩幸    | 日本小児科学会，長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科教授   |

### 【遺伝学用語改訂に関するワーキンググループの活動内容の概要】

本ワーキンググループは、2017年9月に日本遺伝学会が、「遺伝単」を発行して、その中で、いくつかの遺伝学に関する用語の提案がなされたことを契機に、これらの用語が、医学、教育、社会等幅広い分野と関連することから、日本医学会としては十分な検討のプロセスに基づき、コンセンサスを形成することが必要であると考え、本ワーキンググループを設置し、合計9回の会議を開催し、検討を進めてきた。

本ワーキンググループの検討経過を踏まえて、日本医学会分科会（以下、分科会）に対して本ワーキンググループの検討内容を伝えるとともに、分科会の意見を調査し、考え方の集約を行った。第1回のアンケート結果が得られたことを受けて、2018年12月11日に日本医学会公開シンポジウムを開催し、分科会からの演者に加えて、マスメディア、患者団体、国語学の分野など、幅広い分野から演者を迎えて討議を行った。本シンポジウムにおける討議を受けて、本ワーキンググループでさらに検討を重ね、追加の推奨用語案を含めて、第2回のアンケートを各分科会に対して実施した。なお、この過程の中で、本年7月に、日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」というタイトルの「報告」が公表されたことを受けて日本学術会議との意見交換会を設け、課題検討を行うとともに、今後の連携を進めることが話し合われた。

以上の検討に基づき、本ワーキンググループとして、推奨用語の案を決定し、医学用語管理委員会に答申書を提出することとなった。

### 【分科会に対するアンケート結果】

2018年12月11日に開催した日本医学会公開シンポジウムにおける討議を受けて、本ワーキンググループでさらに検討を重ねた。優性遺伝、劣性遺伝の用語については、第1回のアンケート結果では、分科会からは、医療現場で特段困ることが多いという意見は、あまり出されなかった一方、優劣という語感から、特に教育現場で、誤解されやすいという声が強く、ワーキンググループとして、より適切な用語を提示する方向で考えることになった。第1回のアンケートに含

まれていなかった新しい候補用語も提案されたことから、再度、分科会に対してそれらの用語を含めて、各分科会に対してアンケートをとることになった。

第2回のアンケートは、令和1年7月23日（火）～8月30日（金）の期間で実施し、すべての分科会（132分科会）から回答をいただいた。アンケートでは、「優性」、「劣性」の代替語として、次の6つの用語を推奨用語案として示し、各分科会の意見を求めた。

1. 顕性、潜性
2. 顕性、伏性
3. 顕性、隠性
4. 顕式、伏式
5. ドミナント、リセッシブ
6. 表出性、潜在性

その結果は、代替語に変更することに対して賛成するという意見が、103分科会から寄せられ、多くの分科会から賛成の意見が表明された。代替語として、「顕性、潜性」に賛成する意見が、83分科会（80%）、次いで、「表出性、潜在性」に賛成する分科会が12分科会（12%）、「顕性、伏性」に賛成する分科会が6分科会（6%）であった。全体として、推奨用語案の中からは、各分科会からは、「顕性、潜性」に賛成する意見が多かったものの、多くの意見が寄せられており、その要約を下記に示す

- 「顕性」(kensei)、「潜性」(sensei)という発音上の区別のしにくさ、聴覚障害者への配慮が必要ではないか。医療の現場では、現在特に問題なく使用されている「優性」「劣性」という語をあえて変更する必要はないと考える。
- 「優性、劣性」という用語に特段の差別的なニュアンスを感じることはなく、また患者・家族から、そのような感じを受けるので変更してほしい、といった要望をいただくこともなく、これまで特段変更の必要性を感じることはなかった。今回のような大きな変更にも違和感を感じているという側面がある。
- 本来は「優性・劣性」を強いて変更する必要はないとも考えているが、ここまでくればやむを得ないと考える。その意味では、「優性」、「劣性」という用語が不適切なようであるとして、これまでの用語を否定するという立場をとることはせず、「優性」、「劣性」は括弧書きで（優性）、（劣性）で示すことにしたいというWGの考え方には全面的に賛同する。
- 顕性・潜性・潜伏性等の用語を使用するのであれば、優性・劣性という従来の用語を必ず並記することを要望する。
- 優性と劣性の用語を括弧をつけてどのように扱うのかもあいまいで、二つの用語の併存を事実上容認するというのであれば単に混乱を招くだけと危惧する。
- 「潜在性」という用語は医学的にも広く用いられており、「伏」と混同しやすい中国本土の簡字体に比べれば、はるかに明瞭である。また、「顕性」と「潜性」は音感が近く、混同されやすい。「隠性」は「隠す」という主観に基づく行動が含まれており、学術用語としては適切ではない。よって、「表出性」、「潜在性」に賛成する
- 『表出性』とインターネットで検索した際、ほとんどの検索結果が言語(発達)障害に関連する記事やブログ等で溢れ、言葉自体にあまり印象が良いとは思えませんでした。もし、表出性だと聞かされた時に個人で調べた場合、誤解や要らぬ不安要素が生じる可能性を考えます。意味が変わってしまっていたら申し訳ありませんが『現出性』など、他の言い回しの検討をお願いしたいと思います。『潜在性』については賛成したいと思います。
- 「顕性」、「潜性」への代替語に賛成の意見が多かったですが、変更が必要ないという意見もありました。「顕性」、「潜性」はこれまで日本で提案されてきた用語ですが、根付かなかった歴史的な背景があります。また、医学的には「優性」、「劣性」は遺伝形式を示すのみならず病名にも付与されている用語でもあります。変更後に混乱をきたさないための一般国民をはじめ各分野(医療、教育等)に周知・啓発する多方面からの対応が必要です。変更時には①顕性(優性)、潜性(劣性)といった併記、②改訂を行うまでのプロセス、改訂理由の明示、変更後には併記を外すための一定期間後の見直しを行うことを関連団体(学会、メディア、出版社など)が一丸となって共通認識するといった方向性を医学会から示していただくことも重要と考えます。

- 実験医学のドミナントネガティブ作用の記載は「遺伝子の変異産物が正常産物に対してドミナント（優位）に働いて、正常産物の作用を阻害する（ネガティブな効果）作用を指す」とある。これが「顕性」となると理解が難しいのではないか。この例が適切かどうかは分からないが、従来用いられている用語が変わるとこのような例が生じる危惧がある。
- 高校の生物で新用語（顕性、潜性）が決まっています。国民の大多数が学ぶ高校での用語は国民の共通理解となります。国民の皆様の混乱を避けるためにも医学界も同じ用語を使うのが良いと思います。

### 【公開シンポジウムの開催】

日本医学会では、用語を定めていく際に、そのプロセスを重視し、広く理解を得てコンセンサスを形成することが重要であると考えている。その立場から、2018年12月11日に、「適切な遺伝学用語のあり方」というテーマで公開シンポジウムを開催し、特に社会的な影響が大きいと思われる“Dominant”，“Recessive”の訳語に関して、幅広い分野の方々に参加をいただき、検討を進めた。その議論に基づき、ワーキンググループでさらに検討を行い、いくつかの代替用語案を追加することとなった。

### 【日本学術会議との意見交換】

本年7月に、日本学術会議から「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」というタイトルの「報告」が公表された。この報告の中では、顕性、潜性が提案され、優性、劣性が併記される形で示されている。この報告は、基礎生物学の分野の研究者を中心に高等学校の生物教育における重要用語として選定されたものであるが、遺伝学に関する用語は高等学校の生物だけでなく、広く、社会、医療に及ぶ重要かつセンシティブな用語であることから、日本学術会議に対して、「遺伝学に関する用語は、高等学校の生物だけでなく、広く、社会、医療に及ぶ重要かつセンシティブな用語であることから、その用語の検討においては、高校生物に限るのではなく、広く、社会、医学・医療の分野を含めて、総合的な検討の上になされることが望ましく、日本医学会として、日本学術会議とも連携して、より広範な分野を視野に入れた形で、総合的な検討がなされることを是非とも必要であるという申し入れを行った。この申し出を受けて、2019年10月1日に、日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会 生物科学分野教育用語検討小委員会のメンバーの方々と、日本医学会（会長、副会長、ワーキンググループメンバー）で、意見交換会を開催した。日本学術会議の方からは、教育における生物学用語の絞り込みが行われた経緯が説明された。日本医学会からは、社会的に影響の大きい用語に関して決定までのプロセスを重視していること、学術会議においても、臨床遺伝の分野の分科会や会員の意見を十分に反映させていただくこと、今後日本学術会議と日本医学会と合同で意見交換をする場を設け、合意形成を目指すことが適切であると考え、優性、劣性以外にも検討を要する遺伝学用語があり、連携しながら検討を進めることの必要性を提案した。今後の方向性について、用語については長い時間軸で考えていく。今後、両方で情報の共有をしていくことが重要であるとの観点から、「優性、劣性」については日本医学会としての方向性を決めた時点で、必要に応じて情報交換をしていくこと、日本学術会議では2部の中で、生物学系と医学系の連携を進めていただくことなどが承認された。

## 【結論】

以上の経過を受けて、11月13日にワーキンググループ第9回会議を開催し、下記の案を決定し、年度内に医学用語管理委員会に答申書を提出することとなった。

1. 推奨用語としては4文字で「顕性遺伝」「潜性遺伝」とする。従来の表記は、(優性遺伝)、(劣性遺伝)として、括弧書きで表記する。これらの言葉は、遺伝形式を示す言葉であることから、「顕性遺伝(優性遺伝)」「潜性遺伝(劣性遺伝)」と明記することが必要と考えられることから、4文字の言葉として推奨用語を示す。
2. 医学用語管理委員会に本案を提示し、パブリックコメントを経た上で最終的に決定していただく。
3. 5年程度の期間を経た後は推奨用語に移行することとしたい。

